

取引先のハラール認証米の販売に向けた新規融資の取組み

(金融機関名) 秋田県信用組合

<p>1. 動機（経緯）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ A社（食品販売業者）は24年12月に起業。25年4月、当組合の担当者がA社を新規訪問した際、同社が以下のとおりイスラム教徒（ムスリム）市場向けにコメを販売したいという事業構想を持っていることを確認した。同社の事業構想に対し、当組合は成長の可能性が高いと判断、構想の具体化に向け、当組合は資金対応を含む経営支援に取組むこととした。 ① 地域の主要産業である農業の活性化（儲かる農業）により、生活基盤が安定するビジネスモデルを構築し、地域への若者の定住化を図りたい。 ② 有機栽培米「あきたこまち」を自社独自の技術により「胚芽米加工」し、安全・安心・体に優しいお米を末端ユーザーへ販売する「BtoC事業モデル」を構築したい。 ③ コメの消費戦略を鑑みると、世界の総人口の1/3を占めるイスラム教徒（ムスリム）への提案が必需であり、ムスリム市場へのアプローチが喫緊に必要と考える。
<p>2. 概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以上を受け、当組合は資金面からの支援に加え、コメの仕入先を確保することや中小企業庁の「海外需要獲得型起業・創業補助金」の受給などを提案。 ・ 「海外需要獲得型起業・創業補助金」の申請にあたっては、精緻な事業計画とそれを裏付ける資料等が必要なことから、支店長と本部地域活性化担当者が申請までの行程表を作成、申請者と面談を繰返しながら事業計画等申請書作成の支援に取組んだ。 ・ 事業計画の策定支援と併せ、ハラール認証取得資金や精米工場の設備資金、補助金交付までのつなぎ資金等の融資支援を行い、A社の海外展開に向けた準備に貢献。
<p>3. 成果（効果）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ A社は25年8月、コメ及び精米工場の分野では全国で初めて、製品生産、加工、流通の過程で豚肉やアルコールが使われていないことを証明する「ハラール認証」を取得、25年10月よりハラール認証米の販売を開始した。 ・ 認証米の販売について、当面は在日・訪日イスラム教徒など国内マーケットターゲットに、都内スーパーやホテル、空港などでの販売に注力。 ・ 東京オリンピックの開催決定と重なったこともあり、消費者や県内の農業関係者からの反響も大きく、25年12月には、認証米の買付費用など増産に向けた増加運転資金も支援。
<p>4. 今後の予定（課題）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、A社はイスラム圏へのコメ輸出も考えているが、当組合では、取引先の本格的な海外展開にあたっての支援（リスクヘッジや海外危機管理情報の収集など）について、ノウハウが不足する分野については全信組連等の協力を仰ぎつつ、資金面以外の経営支援も含め、必要な対応をとっていく。 ・ 市場展開のタイミングが非常に良かったこともあり、同社の業況は順調に推移していることから、地域内に認証米を生産する農家を募り、今後の増産に向けて検討を行っていく。